

# 各寺院からの依頼で創作仏像を制作・建立

## 愛知県岡崎市 石彫家・長岡和慶師

### 道明地藏菩薩座像建立

#### 静岡県藤枝市・曹洞宗大靈寺に

静岡県藤枝市の曹洞宗・大靈寺の近藤章正住職より、一昨年11月に「父母の供養と檀家の繁栄を願って、道明地藏を建てたい」との電話があった。その後、長岡和慶師のアトリエに訪談され、道明地藏菩薩座像の正式な注文を受けることになり、制作に入る。

近藤住職は文面で長岡師に願いと「この世の全ての生きとし生けるものの平和を願ひ、当山の檀信徒だけでなく、山門前を行き交う全ての人々、子どもたちの毎日を明るく照らし、各々の道が開けますように」とあり、「二尺の座像」「穏やかで人々に愛されるみ姿を」とのこと。

また、思いのなかには、近藤住職の亡きご両親の御霊が安らかなること、その菩提を願う気持ちも大いに含まれている、とのことだった。

曹洞宗・大靈寺山門脇に建立された同・道明地藏菩薩座像は、かつて長岡師が制作した曹洞宗・大本山の永平寺(福井県)



大靈寺に建立された道明地藏菩薩座像

に完成。

その据付け現場では、集団登校中の小学生がさっそく道明地藏を見つけて、「大仏さんだ!」「かわいい」と大喜び。一人が手を合わせると、それにつられるように他の子供たちも同様に手を合わせていたという。

同像の開眼法要は12月16日、関係者が見守るなか、近藤住職が導師を務め厳修された。参列した和慶師のほか、採掘元の(株)鈴木石材と施工の深見石材店にはそれぞれ感謝状が贈られた。

### 「地藏と餓鬼像」を建立

#### 愛知県西尾市・浄土宗浄名寺に

昨年6月、施主の愛知県安城市在住の内藤その子さんと西尾市の浄土宗・浄名寺副住職の松原紗蓮さんが、出来上がった童観音像を見るために和慶師のアトリエに参訪。台座上下の上に乘せられた童観音像を見て、喜び、感謝されたとのこと。

その際、紗蓮さんはアトリエ内の仏像に興味を持ち、一体ずつじっくり見て回られたが、とりわけ熱心に見ていたのが地藏と餓鬼像だった。

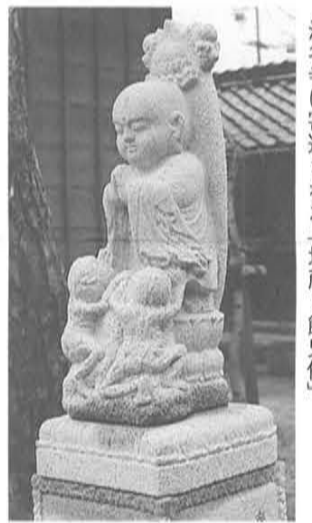
それに気づいた和慶師が同像の説明をすると、苦しむ餓鬼を救おうとするお地藏様の慈悲深き心打たれ、涙をながされた。内藤さんの後日談によると、「紗蓮さんは、帰路の車中でも涙をながされていた」という。

その後、童観音像は無事建立されたが、内藤さんは、紗蓮さんがその日に涙したことや、その日に掛けていたようで、「それほどまでに心を動かされたのであれば、その像も寄進させてほしい」と申し出があった。

浄名寺の許可もいただき、台座の制作を終えたが、餓鬼の像容について、内藤さんの抱くイメージとして、飢えに苦しむ、骨と皮だけの痩せ細った姿となるよう手直ししてほしいとの要望が出された。

これに対して和慶師は

浄名寺に寄進された「地藏と餓鬼像」



「今から餓鬼像を削るの忍びない」として、内藤さんの了解を得たうえで新たに作ることにした。また内藤さんから「今回の建立は、亡き両親の供養のため」と聞いていたので、孟蘭盆経の教えもイメージして餓鬼に反映させて制作した。

以上を踏まえて、今回の地藏は、合掌印を結び剃髪姿の僧形とし、それにすがりつく餓鬼二体はほぼ骨と皮だけの痩せこけた状態で、腹が栄養失調で丸く膨れた姿でつくられた。本体と反花を支える台座は、輪郭を白雲で囲った長岡型オリジナル

の地蔵は、合掌印を結び剃髪姿の僧形とし、それにすがりつく餓鬼二体はほぼ骨と皮だけの痩せこけた状態で、腹が栄養失調で丸く膨れた姿でつくられた。本体と反花を支える台座は、輪郭を白雲で囲った長岡型オリジナル

な。お開眼法要は去る2月1日、松原辰也住職を導師として厳修された。内藤さんは当日、孟蘭盆経の説話(目連尊者の熱心な供養によって、餓鬼道で苦しむ母が救われた話)を参列者に紹介し、今回の建立が父母のためであると説明した。

なおお高見石材にある金剛界大日如来は、座像3尺で依頼されたが、技量と表現の幅を広げるため(当時、和慶師の生活も決して楽ではなかったが、それを覚悟したうえで)少し大きめに作られており、実際の寸法は4尺であった。そのため今回も金剛界と同じ座像4尺でつくることになった。原石は愛知県豊田市産の「花沢石」を使用。

### 胎蔵界大日如来座像

#### 新潟県南魚沼市の・普光寺に

#### 国の重要無形民俗文化財「裸押合祭り」の寺

新潟県南魚沼市の真言宗豊山派吉祥山・普光寺(第四十一世・樺澤賢正住職)境内に去る5月、長岡和慶師制作の「胎蔵界大日如来座像」が建立された。施主は同市在住の檀家・関始さん。元請は(有)高見石材(社長=中俣和敏氏、本社=新潟県中魚沼郡津南町)小千谷営業所で、同社の会長・高橋由造氏からの紹介だった。

関さんの手紙によると



普光寺に建立された胎蔵界大日如来座像



完成した五劫思惟阿弥陀如来座像

「近い将来なくなってしまう。組む吉祥座の「結跏趺座」とした。髪の毛は「垂髪」で、一部は両肩まで伸びる。髪を束ねた紐は「五智宝冠」(如来の最高位を示す宝冠)の左右脇から出て天冠帯となり、頭光背に下りて舞い上がる。

また、珠玉を連ねた瓔珞という装身具を首から下半身まで施してある。下半身にはスカートのようにはゆつたりした裳(裙)をはく。

上蓮華は大日如来に相

「近い将来なくなってしまう。組む吉祥座の「結跏趺座」とした。髪の毛は「垂髪」で、一部は両肩まで伸びる。髪を束ねた紐は「五智宝冠」(如来の最高位を示す宝冠)の左右脇から出て天冠帯となり、頭光背に下りて舞い上がる。

また、珠玉を連ねた瓔珞という装身具を首から下半身まで施してある。下半身にはスカートのようにはゆつたりした裳(裙)をはく。

上蓮華は大日如来に相

### 五劫思惟阿弥陀如来座像

#### 神奈川県・浄土宗三樹院に

昨年3月に「ぼっくり童十一面観音像」を、また、「定印」「結跏趺坐」「通肩(両肩にかけられる服制)」など具体的な要望が記されていた。

和慶師は早速お礼の電話を入れた後、見積書を送ると、直ぐに返信があり、正式な依頼を受ける。五劫思惟阿弥陀如来は、阿弥陀如来が「法蔵菩薩」という名前で修業していた時に、五劫の間(途方もなく長い時間)座禅や思惟し、四十八の大願を成就したとされるが、いろいろと考え、苦悩や葛藤を繰り返した

め、頭髪は伸びて縮み上がり、大きくなったと伝わる。

原石は愛知県豊田市産の「花沢石」を使用。編み笠風の巻き毛、丸々とした肉付きのよい顔立ちが幼児のような愛らしい姿。両肩に袈裟をかけ、手は袖の中に隠されている。住職の強い希望もあり、人差し指を曲げた阿弥陀の定印を作ることになった。

また今回は衣が本体と一体化する上蓮華の半分までかかる「裳座」の技法も取り入れた。台座は同寺で据付けられており、本体と上蓮華を合わせた高さは124.5センチ。今年7月2日に阿弥陀経を説経し制作に入り、据付けは今年8月30日。今井住職からは「霊園の守り本尊として、とても素晴らしい石像を安置することができ、大変感謝しております」との連絡があったという。

### 長岡和慶師

愛知県岡崎市東牧内町字堤外60-1  
TEL&FAX 0564-3212335  
E-mail:wakei-nagaoka@khd-higlobe.ne.jp